

ヨルダン・ハシミテ王国で ベーチェット病調査

札幌市医師会
北海道医療大学病院

北市 伸義

はじめに ～ インディ・ジョーンズの国へ

「ふー、暑い」、10月だというのに気温36度。筆者はシルクロード病の別名を持つベーチェット病の国際調査活動が続けており、今回は中東のヨルダン・ハシミテ王国へ向かいます。映画「インディ・ジョーンズ 最後の聖戦」の舞台でもあります。

ヨルダン・ハシミテ王国とは

ヨルダン（地名）に建国されたハシミテ王国は、イスラム教の開祖ムハンマド（旧表記はマホメッド）の子孫が世襲統治する立憲君主国です。ムハンマドには男子がなく、養子にした従兄弟と娘との間に生まれた男子の子孫が現在の国王までつながります。

ペトラ遺跡で有名な古代ナバテア王国は、やがてローマ帝国に併合、西ローマ帝国滅亡後は東ローマ（ビザンチン）帝国、イスラム帝国、オスマン帝国の長い統治、イギリス委任統治領やトランス・ヨルダン王国を経て、第二次世界大戦後に独立しました。イラク、シリア、パレスチナ、イスラエル、サウジアラビアに囲まれて、建国後も第1次から第5次までの中東戦争など多くの戦争に巻き込まれながらも、強力な警察組織と王室の血統の威光によって比較的安定を保っています。ヘラクレスのシタデル、モーゼがエジプトから脱出して「約束の地」を宣言した山、ローマ時代の遺跡など古代からの長い歴史が今も息づいています（写真1）。

首都アンマンへ

検体採取用の唾液キットは何度も郵送を試みましたが、流通の問題でどうしても届きません。今回はサンプルチューブを手荷物として同国内に持ち込みましたが、ヨルダン・リウマチ科医会から外務省に手配していただいたおかげで手荷物検査を免除されて入国しました。

翌日からは診療しながら臨床データと臨床検体を収集し（写真2）、夜には特別講演と夕食会。参加した医師たちは戦争や紛争を自ら体験しており、パレスチナの真実を垣間みることができます。

陸路でシリア国境へ

我々が入国する数日前、シリアのトルコ側ではトルコ陸軍が国境を突破してシリア国内へ進軍、クルド人勢力圏内で戦争状態になりました。ただ、ヨルダン側国境はまだ平穏との判断で陸路シリア国境へ向かいます。シリア国境の街イルビッドには中東地

域でトップクラスの医学部をもつヨルダン科学技術大学があり、特別講義を担当します。続いて付属のキング・アブドゥラ大学病院とプリンセス・ハヤ研究所で今後の共同研究計画を打ち合わせました。

おわりに ～ 診療ガイドライン

筆者も参加した厚労省の「ベーチェット病診療ガイドライン2020」が今年1月に刊行されました（写真3）。各地で調査に協力して下さる多くの人の切なる思いに応えつつ、日本発の成果で世界の医学に貢献する気持ちを新たにしました。



写真1 古代ローマ遺跡
高度な文明の遺跡が残る（ジャラッシュ）



写真2 眼科診察の様子
ベーチェット病の有病率が非常に高い地域であり、眼症状も重篤



写真3 ベーチェット病診療ガイドライン 2020
2020年1月、ベーチェット病診療ガイドラインが発刊された